

第7回 街なかサポーター会議開催結果

1. 開催概要

1) 日時・参加者等

開催日時	2017年9月26日(月) 19時00分～20時40分	
開催場所	松山アーバンデザインセンター1階	
内容	・意見交換	
参加者	一般参加者	16名
	関係者	5名 松村 暢彦 副センター長 小野 悠 副センター長 柳原 卓 シニアディレクター 尾崎 信 ディレクター 新居田 真美 ディレクター
	事務局	6名 坪内 洋 都市デザイン課 兵藤 一馬 都市デザイン課 河上 康志 都市デザイン課 竹内 達也 (株)アール・アイ・エー 赤尾 光司 (株)アール・アイ・エー 小田 真太郎 (株)アール・アイ・エー
	計	27名

2) タイムテーブル

タイムテーブル	プログラム	担当
19:00～19:03 (3分)	・第6回目会議の振り返り⇒配布資料参照 ・本日の流れについて説明	小野准教授
19:03～19:10 (7分)	① <u>会議の背景、目的、今後の展開について説明・紹介</u> ⇒「銀天街L字地区再開発等基本計画」や「松山銀天街L字地区再開発全体協議会全体構想」の紹介	RIA
19:10～19:15	② <u>イラスト作成までの経緯等を説明</u>	RIA
19:15～19:45 (30分)	③ <u>各班でイラストに対する意見交換・コメント</u> 1班：松村教授（地経：坪内課長） 2班：柳原講師（都デ：兵藤副主幹） 3班：小野准教授（RIA：小田） 4班：尾崎講師、新居田研究員（都デ：河上主査）	各班
19:45～20:10 (25分)	④ <u>意見発表（紹介）</u>	各班
20:10～20:15 (15分)	⑤ <u>今後についての説明</u>	小野准教授
20:15～20:35 (20分)	⑥ <u>サポーター会議を通しての感想及び今後どんなことをしていきたいかの意見交換</u>	各班
20:35～20:40 (5分)	・総評	松村教授

2. 開催結果

1) 各班のWSの結果

1 班	
○メンバー	○グループワークの様子
谷岡 加寿美 東川 祐樹 日野 二郎 小谷 祐樹 坪内 洋 松村 暢彦	 
2 班	
○メンバー	○グループワークの様子
河内 俊樹 日野 順子 毛利 彩希 二宮 秀生 兵藤 一馬 柳原 卓	 
3 班	
○メンバー	○グループワークの様子
光永 早織 田坂 謙介 二宮 真人 小田 真太郎 藤堂 幸司 小野 悠	 
4 班	
○メンバー	○グループワークの様子
武井 泰子 上田 憂 西岡 真吾 小川 憲次 河上 康志 新居田 真美 尾崎 信	 

街なか再生サポーター会議 第7回アンケート結果集計

■アンケート回収枚数
15枚

■アンケート内容

○属性

性別	男	女	その他(未記入)	合計
	10	4	1	15

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	その他(未記入)	合計
	0	4	2	2	2	4	1	15

職業	学生	会社員	子育て世代	シニア世代
	2	1	9	3

※重複あり

○街なか再生サポーター会議全般についての感想を記入してください。

- 20代
- ・講師を招いての勉強会はとても興味深かった。
 - ・再開発の為の会合だったが、コンテンツとして面白かった。
 - ・必要な機能、他都市で盛り込まれた斬新な要素の話聞いてきたが、最終的な落とし所が「今の松山（L字）」を再現する絵本なのか、これからの松山を映す絵本なのか、不明瞭に感じた。
 - ・人を集め、街を元気にするには？と追求すべきと感じた。
 - ・学生時代は、地域活性化などの活動をしてきましたが、大学を卒業し、社会人になってみると、こうした会議に参加する機会がほとんど無くなり、刺激の足りない日々を過ごしていました。
 - ・このような会議に参加することで、世代を超え、職業を超え、刺激を感じる機会が増えました。
 - ・やりたいこと、欲しいものを言い合う、よくある会議じゃなく、本当に必要なものだけが精練されているなど回数を重ねることに感じました。
 - ・絵本にするといった新しい取り組みも実際のまちをイメージしやすくて良かったと思います。
 - ・3回程の会議の時に「他の立場の人になりきって」というWSがあり、それによって今の現状に縛られず、想像しながら意見を考えることができた。しかし、それによってその後のWSの際に自分の立場でなのか、他の立場のことも考えて意見を出していくか迷うことがあった。
 - ・実際にまちなかで子育てしている方、住んでいる方がもっと参加していると、生活風景などもさらに見えきたのかなと感じた。
-
- 30代
- ・参加できない回が続きご迷惑おかけしました。
 - ・ワークショップに多く参加することができ、アイデアが重層的に積み重なり、より魅力的なものに形作られていく過程が楽しかったです。
-
- 40代
- ・改めて街に必要な機能が分かった。
 - ・何もしないと街は衰退するが、みんなで議論して街づくりができた感じが良い。
 - ・肝心な第1回、第2回に参加できていないので、少しわからない部分もありますが、もしリアリティを掘り下げることができれば良かったと思います。
 - ・多様な方々がこの街に対する想いを持たれていることに感動しつつ、根底には「暮らしやすい街」という意識があると感じました。
-
- 50代
- ・自分が住んでいる街のこれからを考える中、グループで話し合いながら進める中、異世代の声を聞いたことがよかった。
 - ・まちづくりの計画に参加させてもらって、より愛着がわいてきた
→みんなの思いをいろんな人に伝えたいと思う。
 - ・毎回いろんなジャンルの方のお話を伺うことができ、勉強になりました。
 - ・その上でL字地区について考えることができたのはとてもよかったです。
 - ・プロの方でない、一般の学生さん、会社員の方などのお話を伺うのはとても貴重だと思います。
 - ・一般の生の声をどんどん取り入れながら、素敵なL字地区の街ができると、とても嬉しいです。
 - ・全く違う産業に関わってる方も参加されると、また面白いのかなと思いました。
-
- 60代以上
- ・新しい事業形態の人の意見が聞けて大変参考になった。
 - ・新しい発想が聞けて良かった。
 - ・理想的な街づくりは、利益（生産性）の裏付けが必要。
 - ・緑多い街にする為には高層で容積を取り、坪当たりの生産性を上げる必要があるのではないかな？
 - ・講師はなかなか良かったと思う。
 - ・多世代で話せたのは良かった。
 - ・昔からL字地区には、そろっていた。
 - ・松山の都市機能を再現する・更新するという話かな？
 - ・活発な意見が多く出され、有意義な会合であったと思います。
 - ・サポーター会議のアイデアが少しでも多く生かされることを期待します。

○今後、このようなワークショップ等、何かやってほしい、やってみたい、ということがあれば記入してください。今後の参考にさせていただきます。

20代	<ul style="list-style-type: none"> ・L字再開発の目的を明確にしながら、具体的な街づくりを話す場があると良い。 ・どんな店を設置するか？という話ではなく、どんな機能を持たせるかにフォーカスした話し合いもあると良いと感じた。 ・絵本のデザインをする人がワークショップの場で一緒に議論すれば、みんなのイメージがもう少し具体的に表現できたのかなと思いました。
30代	<p>最終的にまとまったシーンのイラストを見た時に・・・</p> <p>①このL字地区に住んでいる人のシーンが少なかったのが気になりました。 どちらかと言うと、来街者がメインのシーンで、このエリアに住んでいる住民・市民がどういってお店で食材を買って、日常の暮らしを営むのか、といったシーンが必要なかと思いました。なのでこのエリアに住む人の暮らし（24時間の生活を切り取ったシーン）に焦点を当てたWSをしてみたいです。</p> <p>②何となくどこかで取り組んでいることの焼き直しになっていないか気になりました。 松山固有の姿へとさらに踏み込んだシーンを追求できたらおもしろいと思いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・＜対象＞ 地元メイン又は、地元と仰仰な立場半々 ・＜内容＞ 単発でなく長期的なもの（毎回講師が違うとかでなく） 地元、RIAでない第三者の民間、デハでない、リハ系の人（清水さん、馬場さん）を講師に、どうやって再生させるかを長期的に考える。
40代	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の人にたくさん参加して欲しい。 ・プレイヤーが活動できる環境づくりについてのワークショップ。 ・中心市街地は街の生命線だと思いますので、L字地区以外も含め、さらに発展させていきたいと思います。 ・その際はまた参加させていただければと思います。
50代	<ul style="list-style-type: none"> ・街づくりのワークショップ（使い手） イベントの企画－実施、使い方、街案内
60代以上	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの市民にワークショップを体験させてください。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・どういうビジョン、やり方を考える場 ・地元パワー ・長期的に関わってくれる人を松山に、ゲストはもうよくて、デハ・コンサでない人 ・市のビジョン、位置づけを一緒に考えていく。（市だけでなく） ・チームづくり、本気感を出す。

2) 総括

第7回目は、今回のサポーター会議の開催の背景となっている「銀天街 L 字地区再開発等基本計画」や「松山銀天街 L 字地区再開発全体協議会全体構想」についてご紹介させていただきました。その後、第6回目に各班で整理・作成いただいたテーマとそれに基づくシーンをもとに、事務局で作成したイラストに対して参加者で意見交換を行い、各シーンに対する意見を発表していただきました。

その後、最終回となった今回は、サポーター会議を通しての感想や今後どのようなことをしていきたいのか、ということについて各班で意見交換をしていただきました。

第7回目の総評では、松村先生から、「初回レクチャーで説明したまちづくりにおける「制度的かつ手法的空間」と「価値的かつ自由空間」のうち、今回のサポーター会議のアウトプットがまさに後者に当たるものであり、カタチを決めるのではなく、どんな活動をしたいのか、ということを議論してきた。ぜひ、このアウトプットを実現するために、地元商店街の皆さんだけでなく、市民に対して発信していくことで、「L 字地区がこんな形になる、L 字地区でこんな活動ができる」、というような、市民が L 字地区まちづくりの出来上がりを心待ちにする状況ができれば、L 字地区が大きく変わっていくはず。松山の先 50 年はここに かかっている。このエリアにみんなが来たいと思える施設が出来上がらなければ松山は内側から腐っていく可能性もある。ぜひ、このサポーター会議のアウトプットが実現できるような街づくりをしたいと思う。引き続き皆さんと協力しながら前に進めていきたい。」といったコメントをいただきました。

サポーター会議で使用したイラストは、松山銀天街 L 字地区再開発連絡協議会にも報告し、サポーター会議で出た意見に加え、地元の皆さんからの意見も反映したうえで、絵本としてとりまとめます。こちらについては、「市民と地元が共作した作品」として、今後、ホームページやメディア等を通じて一般にも公開を予定しています。

街なか再生サポーター会議は、今回で最後となりましたが、皆様のおかげで大変良い会議となりました。今後は、会議の最後に頂きましたアンケートや意見交換の内容を踏まえ、サポーター会議の延長線上の取り組みについて検討していきます。L 字地区の街づくりが松山にとって、皆様にとってより良いものとなるよう、引き続きよろしくお願ひします。

3. 参加者名簿

班	番号	分類	氏名	備考
1	1	使い手	谷岡 加寿美	
	2	"	東川 祐樹	
	3	地元	日野 二郎	
	4	民間	小谷 祐樹	
	5	行政	坪内 洋※2	
	6	UDCM	松村 暢彦※1	
2	1	使い手	河内 俊樹	
	2	"	日野 順子	
	3	"	毛利 彩希	
	4	地元	二宮 秀生	
	5	行政	兵藤 一馬※2	
	6	UDCM	柳原 卓※1	
3	1	使い手	光永 早織	
	2	"	田坂 謙介	
	3	民間	二宮 真人	
	4	"	小田 真太郎※2	
	5	地元	藤堂 幸司	
	6	UDCM	小野 悠※1	
4	1	使い手	武井 泰子	
	2	"	上田 憂	
	3	民間	西岡 真吾	
	4	地元	小川 憲次	
	5	行政	河上 康志※2	
	6	UDCM	新居田 真美	
	7	"	尾崎 信※1	

※1：ファシリテーター ※2：ファシリテーターの補助